

1 題材名 教えて！ 住まいのコーディネーター

2 本題材の目標

- (1) 家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解するとともに、家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解する。〔知識及び技能〕
- (2) 家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。〔思考力、判断力、表現力等〕
- (3) 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践する。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知①家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解している。	思①家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、課題についての解決策を構想している。	態①住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。
知②家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。	思②家族や地域の人々と協働し、安全を確保するために工夫できることを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	態②家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、自らの生活を振り返って改善して、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
	思③快適な住まい方について問題を見いだして課題を設定し、解決する力を身に付けている。	

4 題材について

(1) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領解説技術・家庭編(平成29年7月)のB住生活(6)「住生活の機能と安全な住まい方」を受けて設定している。課題をもって、健康・快適・安全で豊かな住生活に向けて考え、工夫する活動を通して、家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能、家族の安全を考えた住空間の整え方に関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、住生活の課題を解決する力を養い、住生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することをねらいとしている。東日本大震災の際に、宮城県釜石市立釜石東中学校の生徒が、地域の高齢者や児童と一緒に避難したことで多くの命が救われた事例がある。この事例は、日頃から安全な住まい方について課題や解決方法を見だしていたからこそ実践できたことであり、中学生にも地域のためにできることがあり、実践することの大切さに改めて気付くきっかけとなった。また、自然災害だけでなく、家庭内事故や少子高齢化に伴う高齢者への配慮など、様々な視点から安全・快適で健康的な住生活を考えることで、生徒がよりよい住生活を送ることができ、将来の自立につながると考える。

(2) 児童観 (省略)

(3) 指導観

本題材の目標を達成させるために、「基礎的な知識の構築」、「視点を広げるためのICT活用」、「住まいカルテの作成」の三つを柱にして授業を展開する。一つ目の「基礎的な知識の構築」では、

基礎的な知識のインプットだけでなく、キーワードを用いて友達に説明する場面を設定するなど、アウトプットする学習活動を繰り返し行う。二つ目の「視点を広げるためのICT活用」では、課題を見いだすときや、どのような解決方法があるかを考える際、タブレットを用いて視覚化することで、自分の気づきや考え、解決に必要な情報などを整理することができるようにする。例えば、モデルルームの写真からどのような家庭内事故が想定されるかを考える活動をする際、タブレットを用いることで生徒は自由に写真を拡大することができる。すると生徒の中には、小さな段差に気付くかもしれない。生徒自らの発見を可能にすることで、中学生ではつまずきにくい段差でも高齢者にとっては家庭内事故につながりかねないと発展することができる。また、自分の発見や考えを説明する際、タブレットを用いて可視化することで相手により伝わりやすくなり、説得力のある表現力の向上にもつながると考える。三つ目は、「住まいカルテの作成」である。生徒のプライバシーに配慮した上で、生徒一人一人の住まいに対するニーズや生活の仕方を「住まいカルテ」に書き込み、話し合い活動や友達の考えに助言をする際に活用する。住生活について様々な視点から学習し、自分の住まいにおける展望をもたせ、住生活に対する学習意欲を高めていきたい。

5 題材の指導計画（14 時間扱い）

○指導に生かす評価

◎記録に残す評価

次	時	学習内容・活動	知	技	思	態	評価方法・留意点等
1	1	- 本時の学習課題をつかむ。 住まいにはどのような役割や空間があるだろう。 - 家ででの生活の仕方を振り返り、住空間ごとに分類して、住まいの基本的な機能と住空間の関係を理解する。 - モデル家族をもとに、快適な住空間となるための部屋の配置を考える。 - 本時のまとめをする。 住まいは三つの役割があり、生活行為により空間を分けることで家族が快適に過ごすことができる。	○				知①分類が難しい生徒には、個人で過ごす場か、家族で共有している場であるかを確認させ、分類しやすくする。 ◎ 態①【活動の様子・ワークシート】
	2	- 本時の学習課題をつかむ。 日本の住まいは、どのように変化していったのだろう。 - 日本の伝統的な住まいの特徴を調べて、まとめる。 - 日本の伝統的な住まいと欧米の住まいを比べて、欧米の住まいの特徴をまとめる。 - 現代の日本の住まいが和式と洋式の住まいのどのような点を取り入れているか、まとめる。 - 本時のまとめをする。 日本の伝統的な住まいは、気候に適した和式の住まいであったが、現在では洋式のよさを組み合わせた和洋折衷な住まいが取り入れられている。	○				知①比較が難しい生徒には、和式を取り入れている場と洋式を取り入れている場で色分けをして、違いに気付けるようにする。 知①【発言・ワークシート】
2	3	本時の学習課題をつかむ。 家庭にはどのような危険が潜んでいて、どのような対策ができるだろう。					

		・モデルルームを見て、どのような危険が潜んでいるか考える。 ・資料(図や表)を見て、家庭内事故の発生状況や原因を考える。 ・なぜ幼児や高齢者に家庭内事故が多いか、身体的特徴を捉える。 ・ユニバーサルデザインの視点から、家庭内事故を防ぐ方法を考える。 ・モデルルームで起こりうる家庭内事故に対し、どのように改善できるか改善策を話し合う。 ・本時のまとめをする。 家庭内事故を防ぐためには段差をなくすなど家の造りを工夫するだけでなく、適度に部屋を整頓するなど生活の仕方を工夫することも必要である。	◎		○	思①家庭内事故を防ぐ方法が思いつかない生徒には、事故の原因や幼児や高齢者の身体的特徴を振り返るように声をかける。 知②【発言・ワークシート】
4 本時	・本時の学習課題をつかむ。 災害に備えた住まいにするためにどのような対策ができるだろう。 ・動画を見て、地震による家具の転倒を防ぐ対策について考える。 ・自分の寝室やリビングなどを思い浮かべて、家庭内事故や災害時の危険箇所を想定する。 ・想定した危険箇所を「自分で改善できること」と「家族と相談してから改善すること」の二つに分類する。 ・「自分で改善できること」は、どのように改善するかを考える。 ・「家族と相談してから改善すること」は、家族にどのような改善策を提案するか考える。 ・改善策を共有し、見直しをする。(個人→グループ→個人) ・本時のまとめをする。 (例)避難経路を確保するために、家具を固定したり、日頃から床に物を置かないようにしたりする。				○	思①危険箇所が想定しにくい生徒には、前時の学習を振り返らせ、自分の家と重ね合わせて考えるように促す。
					○	思①改善策が分からない生徒には、前時の学習でどのような改善策があったか振り返るように声をかける。
					◎	思①【発言・ワークシート】
5	・本時の学習課題をつかむ。 自分の住まいと地域が安全になるためにできることを考えよう。 ・***市のハザードマップを見て、どのような災害が想定されるか考える。 ・動画(東日本大震災における釜石東中学校の生徒の取組)を見て、中学生にできることは何か話し合う。 ・「友達と遊んでいる時に災害が起きてしまった」ことを想定し、どのような行動がもとめられるか考える。(ペア→グループ→学級)				○	思②想定が難しい生徒には、学校の避難訓練を思い出すよう促し、どのような避難行動(避難経路の確保、避難場所、避難途中の声かけなど)が大切だったか振り返るように声をかける。
					◎	思②【発言・ワークシート】

	・本時のまとめをする。 (例)***市では地震や水害が起 こりやすいが、高台が少ない。そ のため、災害が起きた時はより高 いところへ避難することを近くに いる人に伝えながら、自らも素早 く避難行動できるようにする。				
6	・本時の学習課題をつかむ。 快適な室内環境にするために、ど のようなことに気を付けて整えた らよいだろう。 ・快適な室内環境を整えるために、ど のような対策があるか考える。 ・風通しの実験動画を見て、換気の重 要性に気付く。 ・ダニやカビがどのような条件で繁殖 するのか調べ、最適な室温を理解す る。 ・アプリを使い、どのくらいの音で周 囲が不快と感じるか実験する。 ・社会科の学習と関連させ、日照権に ついて調べる。 ・本時のまとめをする。 快適な室内環境にするために、こ まめに空気を循環させ、騒音や日 当たりにも気を配り、定期的に清 掃することなども大切である。			○ ◎	思③実験動画(通風・室温)やアプリ (音)を用いて、快適な室内環境 について科学的根拠に基づいて 対策を考えられるようにする。 思③【観察・ワークシート】
7	・本時の学習課題をつかむ。 一人暮らしをするときには何が必 要になるだろう。 ・一人暮らしをすることを想定し、必 要な家具や家電を考える。 ・色の組み合わせによる空間の見え方 の写真やイラストを見て、どのよう な空間にしたいか考える。 ・本時のまとめをする。 限られた部屋面積の中で、必要な ものや使うものを選び、手入れや 掃除しやすい家具配置をしたり、 好きな色やお気に入りの空間を作 るために配色を工夫したりするこ とが大切である。			○ ◎	態②必要な家電や家具を考えるこ とが難しい生徒には、家にあるも のを思い出しながら、一人暮ら しで使用するかどうか判断する ように声をかける。 態②【観察・ワークシート】
8	・本時の学習課題をつかむ。 環境にやさしい住まい方をするた めにどのような工夫ができるだろ う。 ・持続可能な社会を実現するために、 「電気の使用量を減らす工夫」、「長く 住み続ける工夫」、「地域のよさを生 かした工夫」の三つの視点に着目し て、どのような工夫があるか調べ、			○	態②調べるのが難しい生徒には、 参考となる資料やHPなどを準 備しておく。

		まとめる。 ・ 本時のまとめをする。 エアコンの使用量を減らして二酸化炭素の排出量を減らすだけでなく、物を大切に使うことで何世代にもわたって愛着をもって利用でき、環境にやさしい住生活の実現につながる。				◎ 態②【観察・ワークシート】
--	--	---	--	--	--	-----------------